

1. 一般住民コホート研究 2. Japan Public Health Center-based Prospective Study (JPHC Study)

国立がん研究センター社会と健康研究センター
疫学研究部 室長
後藤 温

同 センター疫学研究部 室長
澤田 典絵

同 センター センター長
津金昌一郎

[Summary]

多目的コホート研究(JPHC Study)は、1990年に開始した10都府県11保健所管内の40～69歳の地域住民14万人を対象人口とした前向き追跡調査であり、約11万人が開始時のアンケートに回答した。異動情報や死亡の際は死因、がん・脳卒中・心筋梗塞の罹患などを追跡している。JPHC Studyでは、脂質に関わる複数の論文を発表しており、n-3多価不飽和脂肪酸摂取と虚血性心疾患リスク、飽和脂肪酸摂取と脳卒中・心筋梗塞罹患リスク、総コレステロール低値とがん罹患リスク、HDLコレステロールと認知症・軽度認知障害の関連などが代表的な論文である。また、2011年からは、7県の40～74歳の地域住民26万人を対象人口として、次世代多目的コホート研究(JPHC-NEXT)を開始している。約11.5万人から研究参加への同意と生活習慣に関するアンケート調査への回答が得られ、約5.5万人から血液と尿の提供を受けた。追跡情報としては、異動や電子化医療情報などを活用した疾病罹患・治療状況、要介護認定データの収集を行っている。

Key Words :

コホート研究 □ 一般住民 □ アンケート □ 生体試料 □ 予防

はじめに

多目的コホート研究 (Japan Public Health Center-based prospective Study: JPHC Study) は、生活習慣とがん・循環器疾患発症との関連を究明する目的で、1990年に開始された大規模長期の観察型の前向き追跡調査(コホート研究)である¹⁾。本研究は2019年現在も追跡調査などが続けられており、30年近くが経過して、300を超える英文論文としてのエビデンスが蓄積され、保健施策の立案などにおいても、活用されている状況である。

近年、日本人の生活習慣・環境は大きく変化し、血液・尿などの生体試料から得られる情報も多くなり、IT技術の飛躍的な進歩により医療情報の電子化が進み、研究利用できるようになってきた。さらに、個人情報保護関連の法規制や新たに研究倫理指針が制定された。このような背景から、新たなコホートの必要性が認識されるようになり、2011年より次世代多目的コホート研究 (Japan Public Health Center-based prospective Study for the next generation: JPHC-NEXT) が開始され、5年間にわたるベースライン調査を終えた²⁾。

本稿では、2つのコホート研究の概要と、脂質を中心としたこれまでの成果を紹介する。